# 海のはくぶつかん

Vol.51 No.2
2021.3 270号

今月のいいね！

## 海底の黄金キアマダイ

キアマダイ

【名前】
キアマダイ（スズキ目アマダイ科）
【すむ場所】
本州中部以南。水深 30～300mの砂泥底。
【大きさ】
全長 35cm
【当館で見られる場所】
駿河湾の生きもの

【特ちょう】
アマダイの仲間の中では最も深場に生息します。他のアマダイに似ていますが、本種は目の下に一本の銀色の線があることで見分けられます。
【担当学芸員から一言】
駿河湾ではキアマダイの他にもアカアマダイ、シロアマダイが知られますが、本種は生息数が少ないようで、あまりお目にかかることはできません。（Y.I）

Q&A

## 疑問にお答えします：化石パート１

Q.展示している化石は本物ですか？
展示している化石には、本物とレプリカがあります。レプリカは本物から型を取り、形をコピーしたものです。化石の形を比較したり、手に取って扱うような展示などに使います。
Q.化石はどうやってできるのですか？
化石ができるには生き物の体や生活の跡が、形を失う前に砂や泥に覆われることが必要です。そのまま長い年月が経つ中で水の力や押し付ける力あるいは地面の熱で骨の質が変わり、化石となります。多くの偶然が重なった非常に貴重なものなのです。（S.T）

アンモナイトの化石（実物）

東海大学海洋学部博物館　〒424-8620 静岡県静岡市清水区三保 2389

四季折々

# 海辺の植物―春の訪れ―

海浜植物と富士山

ハマヒルガオの蜜を吸う虫

春は様々な植物が花を咲かせ、生命の息吹を感じることが出来る季節ですね。春に花を楽しむといえば皆さんが思い浮かべるのやはり桜でしょうか。しかし、春の花を楽しむことができるのは身近な庭や公園、山だけではありません。

当館の周りに広がる三保の砂浜では冬の間は葉や花は枯れ、茶色になった植物がほとんどです。このような海岸を見ると少し寂しい感じもしますが、そんな中でも海辺の植物は、砂の中では着々と春の準備を進めています。

温かくなると海を旅してきた海浜植物の種（2020 年 9 月号参照）や、砂の中でじっとしていた種たちが芽を出し始めます。そして海岸を訪れれば、ハマエンドウ、ハマダイコン、ハマボウフウ、ハマヒルガオ、ハマユウと「浜」の名の付く花たちが咲き始め、私たちを出迎えてくれます。また春から夏にかけてはテリハノイバラ、ハマゴウ、ハマゴウに寄生するネナシカズラなど季節の花を楽しむことが出来ます。さらにその花に誘われて様々な虫たちも集り、三保の海岸も賑やかな季節へと変わっていきます。

三保の海岸といえば松原と富士山が作り出す風景が有名ですが、この時期は砂浜に広がる海浜植物の花と富士山のとても美しいコラボレーションを見ることができます。皆さんも春の訪れを海岸に出かけて感じてみてはいかがでしょうか。（Y.O）

コラム

# 魚を集める―定置網―

定置網とは、いろいろな種類の網を水中に固定して魚を誘い込んで獲る漁業で、大型の網では数百mにもなるものもあります。その漁獲量も多く、沿岸漁業の主力とされ、最近では、ブリで有名な富山県氷見の定置網漁業が日本農業遺産に認定されてニュースになりました。

さて、そんな定置網は水族館にとっても重要な漁業で、私たちが魚を集めることを検討する際に、まず頭に浮かぶのが定置網。それぐらい、魚類の収集や調査には欠かせません。当館では、開館当初から地元由比沖の定置網に度々乗船させてもらい収集を行ってきました。駿河湾の最も湾奥にあるこの網には、季節ごとに様々な魚が入り、特にマアジやタチウオなど食卓に上がる魚は「しずまえ鮮魚」として特産品にもされています。また、時には巨大なマンボウや一般にカジキマグロと呼ばれる魚の仲間などが顔を見せることもあります。さらに、間近まで深海が広がる地形から、深海魚が多く入ることも特徴の一つです。昨年の夏には、スミクイウオという珍しい深海魚を採集して、長期飼育することにも成功しました。このように、その地域の多種多様な魚を収集するために定置網による採集は大変有効です。しかし、これは全て漁師さんたちのご協力があってのことです。これからも感謝を忘れずに駿河湾の魚の収集・調査を継続していきたいと思います。（K.Y）

定置網に入ったシロカジキ

定置網での採集の様子

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。